本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。

CASIO

P

1536·1817P*JA

取扱説明書

1536·1817

このたびは弊社製品をお買い上げくださいまして誠にありがとうございます。末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。
なお、この取扱説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。
時計のお取り扱いで、万一誤ったボタン操作を行なっても、製品に障害を与えることはありません。この時計の特長、機能を十分使いこなしていただくためにもご納得のゆくまでお試しください。

安全上のご注意

絵表示について

この注意書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は「気をつけるべきこと」（注意）を意味しています。（左の例は感電注意）

⃠記号は「してはいけないこと」（禁止）を意味しています。（左の例は分解禁止）

●記号は「しなければならないこと」（強制）を意味しています。（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）

⚠警告

本機をスキューバダイビング（アクアラング）に使用しないでください。
※本機はダイバーズウオッチではありません。
誤って使用すると、事故の原因となります。



電池の取り扱いについて

本機で使用しているボタン電池を取り外した場合は、誤ってボタン電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。

電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談して下さい。

⚠注意

かぶれについて

時計の本体およびバンドは、直接肌に接触していますので、使用状態によってはかぶれを起こす恐れがあります。
①金属・皮革に対するアレルギー
②時計の本体およびバンドの汚れ・サビ・汗等
③体調不良等

●バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは余裕をもたせてご使用ください。
●「抗菌防臭バンド」は汗などによる細菌の繁殖を抑え、においの発生を防ぐもので、皮膚のかぶれを防ぐものではありません。
●万一、異常が生じた場合は、ご使用を中止し、医師にご相談ください。

お手入れについて

ケース・バンドは汚れからサビが発生し、衣服の袖口を汚すことがあります。ケース・バンドは常に清潔にしてご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとサビ易くなります。

分解しないでください

本機を分解しないでください。ケガをしたり、本機が故障する原因となることがあります。



ご使用上の注意

防水性

●表面または裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されているもの。

	BAR無し	5BAR	10BAR	20BAR
洗顔、雨	○	○	○	○
水仕事、水泳	×	○	○	○
ウインドサーフィン	×	×	○	○
スキンダイビング（素潜り）	×	×	○	○

※BARは気圧の意味で、防水性の高さを表わします。
※専門的な潜水＝スキューバダイビング（アクアラング）でのご使用はお避けください。

●表面または裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されていないもの。
防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
●防水構造の機種でも、水中でのボタン操作は行なわないでください。
●防水構造の機種はシャワー程度の温水では使用できますが、入浴等で長時間使用することはお避けください。
●海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。
●防水性を保つために定期的（２～３年を目安に）なパッキン交換をおすすめします。
●電池交換の際、防水検査を行ないますので、必ずお買い上げの店あるいは最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにお申し付けください。（特殊な治具を必要とします）
●防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態で、水仕事、水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。

バンド

●バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
●樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。バンドにヒビなどの異常がある場合は、必ず新しいバンドと交換してください。そのときは、お買い上げ店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにバンド交換をお申し付けください。保証期間内であっても実費にて申し受けます。
●樹脂バンドの表面にシミ状の模様が発生することがありますが、人体および衣服への影響はありません。また、布等で簡単にふきとることができます。

温度

●自動車のダッシュボード等の高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり止まったりすることがあります。
●＋60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。

ショック

●通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけたりすると故障の原因になります。

磁気

●磁気の影響はありません。

薬品類

●水銀や化学薬品（シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類）が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

保管

●長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふきとり、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

■お手入れについて

お手入れのしかた

●時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗・水分などは、吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にご使用ください。
●金属バンドは、時々、部分洗いすることをおすすめします。部分洗いの際、時計本体に水がかからないようにしてください。非防水時計の場合は故障の原因となり、また防水時計でも石けん水により防水性が損われることがあります。

お手入れを怠ると

●「サビ」
・ステンレススチールはサビにくい性質ですが、汚れによりサビが発生します。
※汚れにより酸素が断たれると、表面の酸化被膜が維持できなくなり、サビが発生します。
・表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやサビがしみ出して、衣類の袖を汚すことがあります。
●「劣化」
・樹脂バンドは汗などの水分で濡れたままにしておいたり、湿気の多い場所に保管すると、劣化が早くなり、切れたり、折れたりすることがあります。
●「かぶれ」
・皮膚の弱い方やアレルギー体質の方は、かぶれたりすることがあります。
・万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。
・特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れするか、金属バンドのご使用をおすすめします。

万一、本機使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

■蛍光商品のお取り扱いについて

蛍光商品のケース／バンドを使用しているものは、以下の点にご注意ください。
・長時間、直射日光に当てますと、色あせする場合があります。
・長時間、濡れたままにしておくと色がおちるおそれがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとって、乾かしてください。
・長時間、他の商品と密着させたり、濡れたまま他の商品と一緒にしておくと、他の商品に色が移行することがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとり、密着保存を避けてください。
・プリントがしてある場合は、プリント部分を強くこすると他の部分に色がつくことがあります。

■電池交換について

最初の電池

●工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
※モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
※なお電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。

消耗

●電池が消耗しますと「時刻の狂いが目立ったり」「表示が見にくくなったり」「消えたり」します。
●消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

電池交換

●電池交換は必ずお買い上げ店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにお申しつけください。
●電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。
●電池交換の際、防水検査を行ないます。（防水検査は別途有料となります）

■液晶パネルの交換について

液晶パネルは約７年を過ぎますと数字や文字が読みにくくなる場合があります。そのときはお買い上げ店またはカシオテクノ・サービスステーションに交換をお申しつけください。実費にて申し受けます。

■ELパネル（表示照明部）の交換について

表示照明用として本機に使用しているELパネル（エレクトロルミネッセンスパネル）は、長期間使用しますと明るさが弱くなり、光が暗く見える場合があります。このようなときにはお買い上げ店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションに交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

カシオ計算機株式会社

MA9903-A

操作のしくみと表示の見方

・Ⓑボタンを押すごとに、以下の順で表示が切り替わります。
・各モードでボタン操作をした後Ⓑボタンを押すと、直接時刻モードに戻ります。
※ Ⓛボタンを強く押したとき、液晶表示が若干薄くなることがありますが、機能上問題はありません。

時刻モード

モジュールNo.1817と1536はインジケーターマークの位置が異なるだけです。
本書では、モジュールNo.1817を使って説明しています。
※モジュールNo.は時計本体裏面に刻印されています。

<モジュール No.1817>



<モジュール No.1536>



● 12／24時間制表示切り替え
Ⓐボタンを押すごとに12時間制表示（午前／午後）と24時間制表示が切り替わります。

Ⓑ



ライト点灯について

どのモードでも、Ⓛボタンを押すと文字板が約2秒間発光します。
※文字板発光中にⓁボタンを押すと、その時点から引き続き約2秒間発光します。



●ご注意
●直射日光下では、発光が見えにくくなります。
●発光中にアラームなどの電子音が鳴ると、発光を中止します。
●発光中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これは発光のために時計内部のELパネルが振動するときの音で異常ではありません。

製品仕様

水晶発振周波数	32,736Hz
精度	平均月差±30秒以内
基本機能	時・分・秒・日・曜日 午前／午後／24時間制表示
アラーム機能	時刻アラーム　セット単位＝分 電子音＝20秒間 時報　毎正時に2回電子音で報時
ストップウオッチ機能	計測単位＝1/100秒 計測範囲＝59分59秒99（60分計） 通常計測、積算計測、 スプリット計測、1・2着同時計測
その他	自動復帰機能、モニターアラーム、 ELバックライト
主要回路素子	音叉型高性能水晶振動子、 ワンチップCMOS-LSI
使用電池	CR-2016（電池別途販売）
電池寿命	約5年 （1日につき、ライト2秒間、 電子音20秒間使用した場合）

アラーム・時報の使い方

Ⓑボタンを押して、アラームモードにします。

●アラームは分単位でセットできます。
●セット時刻になると20秒間電子音が鳴ります。
●時報は毎正時（00分）にピッピッと鳴ります。
※「時」のセットのとき午前／午後、24時間制にご注意ください。
※基本時刻を24時間制表示にしているときはアラーム時刻も自動的に24時間制表示になります。
※アラーム時刻のセットで点滅表示のまま1～2分すると、自動的に点滅が止まります。
※アラームモードのまま1～2分すると、自動的に時刻モードに戻ります。

●アラーム時刻のセット

1 セット状態にする
Ⓛボタンを押します
➡「時」が点滅します。
以後、Ⓛボタンを押すごとに以下の順に移動しますので、セットしたい箇所を点滅させます。



時 → 分 → セット状態解除

2 点滅箇所をセットする
Ⓐボタンを押します
➡押すごとに1つずつ進みます。
※ 押し続けると早送りができます。



Ⓛボタンでセットしたい箇所を選び、Ⓐボタンで表示をセットする操作を繰り返します。

3 セットを終了する
Ⓛボタンを押します
➡点滅が止まるまでⓁボタンを押します。



●アラーム・時報のオン／オフ

アラームモードで
Ⓐボタンを押します
➡押すごとに以下の順でアラームおよび時報のオンとオフが切り替わります。
各マークとも点灯しているときに鳴ります。

アラーム　オフ → オン → オフ → オン
時　報　オフ → オン → オフ → オン

〈モジュールNo.1817〉　〈モジュールNo.1536〉



●鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押します。

●モニターアラーム

アラームモードでⒶボタンを押し続けると、押している間アラーム音が鳴ります。

時刻・カレンダーの合わせ方

Ⓑボタンを押して、時刻セットモードにします。

※「時」のセットのとき午前／午後、24時間制にご注意ください。
※カレンダーは大の月、小の月を自動判別するオートカレンダーですので、うるう年の2月29日以外は修正不要です。
※時刻・カレンダーのセットで点滅表示のまま1～2分すると、自動的に点滅が止まります。

●秒合わせ

月に1度くらいこの「秒合わせ」をしていただくと、時計はいつも正確です。

1 秒が点滅しているときに
Ⓐボタンを押します
➡00～29秒のとき：切り捨てられる
30～59秒のとき：1分繰り上がる
※ 時報は「時報サービス 117番」が便利です。



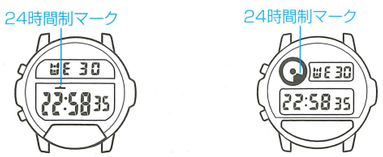
2 秒合わせを終了する
Ⓑボタンを押します
➡点滅が止まります。



●12／24時間制表示切り替え

時刻モードでⒶボタンを押すごとに12時間制表示（午前／午後）と24時間制表示が切り替わります。

〈モジュールNo.1817〉　〈モジュールNo.1536〉



●時刻・カレンダーのセット

電池交換後などで時刻・カレンダーが合っていないときは、以下の方法でセットしてください。

1 秒が点滅しているときに
Ⓛボタンを押します
➡「時」が点滅します。
以後、Ⓛボタンを押すごとに以下の順で移動しますので、セットしたい箇所を点滅させます。



秒 → 時 → 分 → 月 → 日 → 曜日

2 点滅箇所をセットする
Ⓐボタンを押します
➡押すごとに1つずつ進みます。
※ 押し続けると早送りができます。



Ⓛボタンでセットしたい箇所を選び、Ⓐボタンで表示をセットする操作を繰り返します。

3 セットを終了する
Ⓑボタンを押します
➡点滅が止まります。



ストップウオッチの使い方

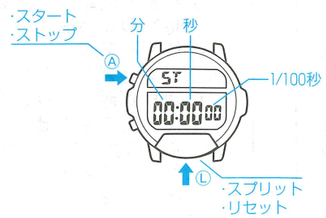
Ⓑボタンを押して、ストップウオッチモードにします。

●1/100秒単位で59分59秒99（60分計）まで計測できます。
●計測時間を超えると、自動的に“0”に戻って計測を続けます。

●計測のしかた

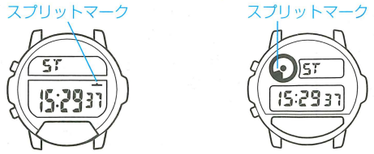
● Ⓐボタンを押すごとに計測がスタート／ストップします。
● 計測がストップしているときにⓁボタンを押すと00分00秒00（リセット表示）になります。
● 計測中にⓁボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続けるスプリットタイム（途中経過時間）計測となります。

● リセット表示



● スプリット表示

〈モジュールNo.1817〉　〈モジュールNo.1536〉



●通常の計測

Ⓐ → Ⓐ → Ⓛ
スタート　ストップ　リセット

積算計測…
ロスタイムのある場合は、ストップ後リセットせずにⒶボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測をはじめます。

●スプリットタイム計測

Ⓐ → Ⓛ → Ⓛ → Ⓐ → Ⓛ
スタート　スプリット計測　スプリット解除　ストップ　リセット

●1着・2着同時計測

Ⓐ → Ⓛ → Ⓐ → Ⓛ → Ⓛ
スタート　1着ゴール（1着タイム表示）　2着ゴール　2着タイム表示　リセット